

2015 年度 異文化間教育学会
Intercultural Education Society of Japan

第 36 回大会プログラム



プレセミナー: 2015年6月5日(金)

会期: 2015年6月6日(土)~7日(日)

会場: 千葉大学 教育学部

異文化間教育学会 第36回大会

プログラム 目次

異文化間教育学会 第36回大会ご挨拶	1
大会参加者へのご案内	2
大会日程	4
千葉大学 西千葉キャンパスへのアクセス	5
キャンパスマップ	7
懇親会場	8
会場案内	9
フロアマップ	10
プレセミナーのご案内	13
特定課題研究	14
第36 回大会企画 公開シンポジウム	15
事務局企画事業「温故知新～学会の未来に向けて～」	16
つながりカフェ 若手研究交流会	17
発表について	18
異文化間教育学会「優秀発表賞」について	19
研究発表プログラム	20
個人発表	21
共同発表	27
ケース／パネル発表	28
ポスターセッション	30
第36 回大会賛助団体ご芳名	33
異文化間教育学会第 36 回大会準備委員会	40

異文化間教育学会 第36回大会 ご挨拶

新倉 涼子（千葉大学）

2015年の異文化間教育学会年次大会は、千葉県千葉市にあります千葉大学で開催させていただくことになりました。千葉大学は、約140年前に設立された千葉師範学校や公立千葉病院を前身とし、昭和24年に新制千葉大学としてスタートした9学部、11研究科（学府、研究院を含む）からなる総合大学です。

平成24年度には文科省の「グローバル人材育成推進事業」（全学推進型）に、昨年度は新たなプログラムである「スーパーグローバル大学創設支援（タイプB）」に採択され、現在、大学をあげて教育活動の国際化を目指しさまざまなプログラムを展開しつつあります。今年の大会プレセミナーでは、その一環としての協働学習の取り組みを紹介したいと思います。このプログラムのねらいは、受講者の言語・文化的背景、予備知識の相違や多様性を互いに学び合う契機として積極的に捉え、学び合いを通して新しい視点、より深い気づきを獲得し、自己を相対化して捉えることにあります。参加者の皆様とより良い教授方法について議論できる機会を持てればと考えております。

千葉県はまた、外国人登録者数は全国で6位、県総人口の1.59%を占めており外国人の定住化は着実に進んでいます。それに伴い家族として滞在する学齢期の子どもが日本の学校に学ぶ機会は千葉県においても増えています。本大会では、増加する外国にルーツを持つ児童生徒を受け入れる学校現場で、日々葛藤を抱えながら教育に携わっている現場の教師に焦点をあてたシンポジウムを企画しています。このシンポジウムでは、教師がエンパワーし、教師力を高めていくための課題とその対処についての提案ができればと考えております。

千葉県は首都圏にありながら、豊かな自然や新鮮で豊富な海の幸・山の幸、人と自然が調和した里山、そして歴史ある町並みや文化があります。そのような環境で育まれた人々の長閑で温かい心を感じていただけるような大会にしたいと思っております。

この機会に千葉大学にお越しいただけることを楽しみにしております。

2015年4月30日

異文化間教育学会
第36回大会準備委員会
委員長 新倉 涼子

大会参加者へのご案内

大会日程

大会会期： 2015(平成 27)年 6 月 6 日(土)－6 月 7 日(日)

会 場： 千葉大学 教育学部

※プレセミナー：2015 年 6 月 5 日(金)13:00-17:00 会場：アカデミックリンクセンター 1F まなび

※懇親会： 2015 年 6 月 6 日(土)18:00-19:30 会場：大学会館 1F 生協フードコート 2

参加資格

会員・非会員を問わず、どなたでも参加いただけます。

参加申し込み

事前申し込みをされる方は、大会参加費および懇親会費を、5 月 14 日までにお振込みください。5 月 15 日以降は、大会当日に当日料金をいただくことになりますことをご了承ください。

Web 入力をお願い

5 月 14 日(木)までに参加申し込みを希望される方は、会員・非会員とも以下の第 36 回大会ホームページ内「参加・発表の申し込み」ページよりお手続きください。

(<http://www.intercultural.jp/iesj2015/index.html>)

お申し込み手続き終了後、登録受付完了メールが自動送信されますので、参加費合計金額などの内容をご確認ください。メールを受信後 1 週間以内に、諸費用を指定口座までお振込みください。参加費の受領をもって、参加申し込みの受付完了といたします。

大会参加費および懇親会費

		事前料金 (5月14日まで)	当日料金
大会参加費	正会員	5,000円	6,000円
	学生会員	3,000円	4,000円
	通信会員	5,000円	6,000円
	非会員 (一般)	6,000円	7,000円
	非会員 (学生)	4,000円	5,000円
	維持会員	1口1名様無料	7,000円
	名誉会員	ご招待	
懇親会	正会員	5,000円	6,000円
	学生会員	2,000円	4,000円
	通信会員	5,000円	6,000円
	非会員 (一般)	5,000円	6,000円
	非会員 (学生)	3,000円	5,000円
	維持会員	5,000円	6,000円
	名誉会員	ご招待	

お払い込みいただいた参加費などは、理由を問わず返却いたしません。予めご了承ください。

- 参加費をお振込みいただく際は、参加者 1 名につき 1 枚の払込取扱票をご使用ください。領収書は、当日に受付でお渡しいたします。

- 6月 6日（土）・7日（日）とも午前9時より受付を行います。受付にて名札をお受け取りいただき、大会会期中はその名札をご着用ください。
- 特定課題研究、公開シンポジウム、個人発表、共同発表、ケース/パネル発表、ポスターセッションの発表者および司会者の方は「発表者・司会者受付」にお越しください。
- 会場には一般来訪者用の駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。
- 6月 6日（土）・7日（日）の両日とも大学食堂は営業しておりません。当日「ランチマップ」を配布しますが、弁当の事前申し込みを受け付けます。詳細は会員にお送りしているメールニュースをご覧ください。当日の弁当の受け渡しは、けやき会館1F 受付付近です。
- 宿泊は各自でご手配ください。

連絡先

大会・Web 申し込み・お支払いに関するお問い合わせ

異文化間教育学会大会ヘルプデスク
 〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 (株)国際文献社内
 E-mail : iesj-desk@bunken.co.jp
 Fax : 03-5227-8632

会員登録に関するお問い合わせ

異文化間教育学会事務局会員業務係
 〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 (株)国際文献社内
 E-mail : iesj-post@bunken.co.jp
 Fax : 03-3368-2822

大会当日に関するお問い合わせ

第36 回大会準備委員会事務局
 〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33 千葉大学 西千葉キャンパス 新倉 涼子研究室内
 E-mail : cireglobal@chiba-u.jp
 FAX : 043-290-2200

大会日程

	6月5日(金)	6月6日(土)			6月7日(日)		
9:00		9:00-受付 けやき会館 1F エントランスホール			9:00-受付 けやき会館 1F エントランスホール		
9:30		9:30-12:00 特定課題研究 「異文化間教育学における実践・現場への 接近法—現場へのまなざしを研究行動へ 展開する」 <i>1F 2112</i>			9:30-12:00 公開シンポジウム 「教師のエンパワーメントを考える—外 国につながる子どもたちを含めた教室・ 学校づくりのために—」 <i>1F 2112</i>		
10:00			12:00-13:00 若手研究 交流会 <i>2F 2205</i>	12:00-13:00 広報・情報化 企画・交流 紀要編集委員会 けやき会館 <i>2F, 3F 会議室</i>	12:00-14:00 事務局企画事業 「温故知新～学会の未来に向けて」 <i>2F 2207</i>		
10:30		12:00-13:00 昼食					
11:00		12:30-受付 アカデミック リンクセンター <i>1F まなび</i>					
11:30							
12:00							
12:30							
13:00	13:00-17:00 プレセミナー 「グローバル社 会におけるリベ ラルアーツ教育 への提案：言語 的・文化的多様 性を持った学生 間における協働 学習のためのア プローチ」 アカデミック リンクセンター <i>1F まなび</i>	13:00-14:00 総会 <i>2F 2208</i>					
13:30							
14:00		14:00-15:00 ポスターセッション <i>1F 2111</i>			14:00-16:30 個人発表 <i>1F/2F 各教室</i>	14:00-15:30 ケース・ パネル <i>1F 2112 2F 2205 2207 2208</i>	14:00-16:30 ポスター セッション <i>1F 2111</i>
14:30							
15:00		15:00-17:30 個人発表 <i>1F/2F 各教室</i>			15:00-17:00 共同発表 <i>2F 2207 2208</i>		
15:30							
16:00							
16:30							
17:00							
17:30							
18:00	17:30-19:30 理事会 けやき会館 3F 会議室 4	18:00-19:30 懇親会 大学会館 1F 生協フードコート 2		17:30-18:30 研究委員会 けやき会館 3F 中会議室			
18:30							
19:00							
19:30							

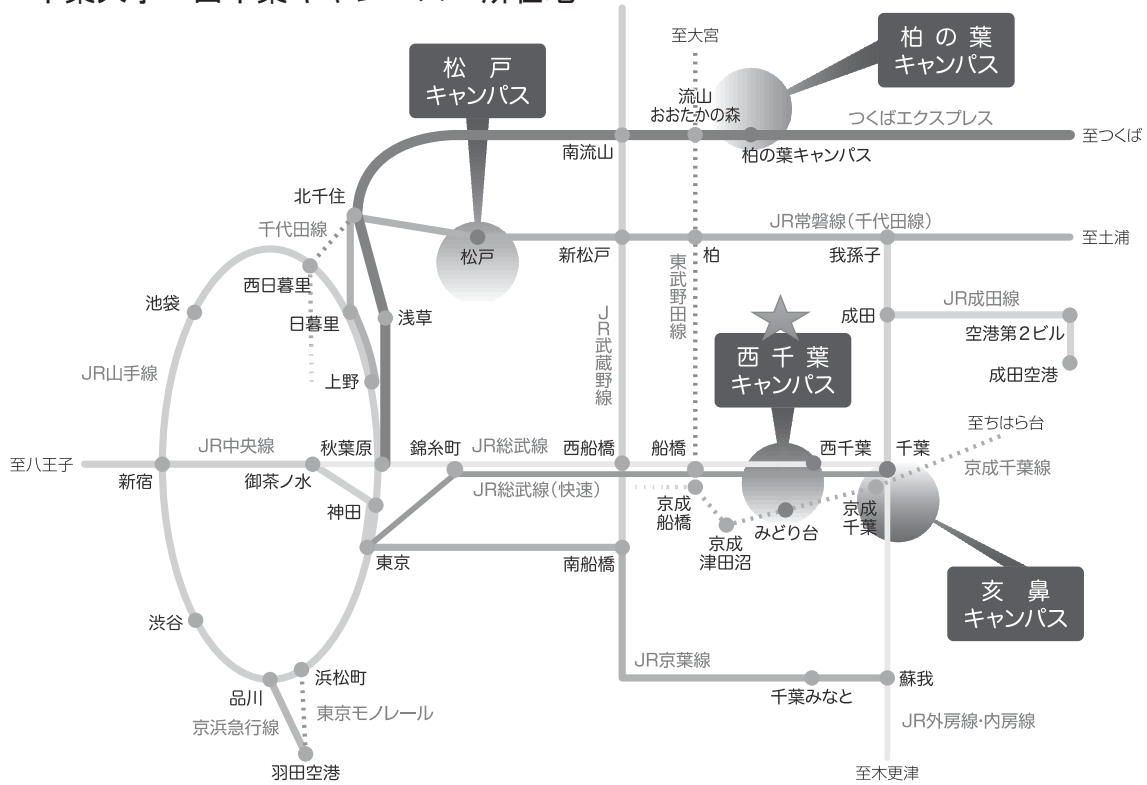
*けやき会館と指定されていない場合は、全て教育学部棟となります。

*ポスターセッションの発表は2日間にわたって掲示します。発表者は、在席時間には必ず在席して下さい。

2日目の在席時間に関しては任意の在席となります。

千葉大学へのアクセス①

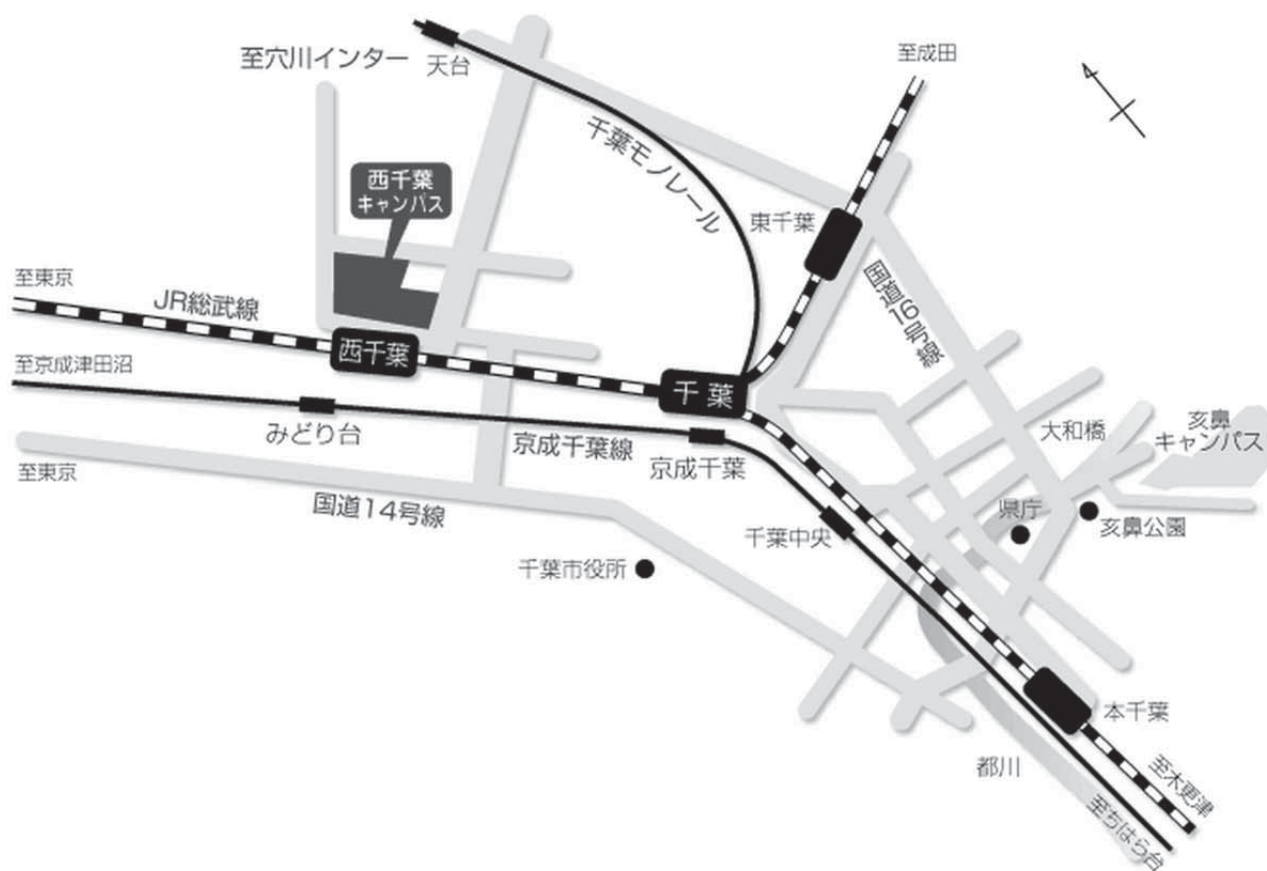
千葉大学 西千葉キャンパス 所在地



交通のご案内

JR東京	35分 8 駅 総武線(快速)	JR 稲毛	3分 1 駅 総武線(各駅停車)	JR 西千葉				
京成上野	35分 6 駅 京成線特急	京成津田沼	11分 5 駅 京成千葉線	京成みどり台				
羽田空港	16分 1 駅 京浜急行線エアポート快特	JR品川	45分 10 駅 総武線(快速)	JR 稲毛	3分 1 駅 総武線(各駅停車)	JR 西千葉		
羽田空港	17分 1 駅 東京モノレール空港快速	JR浜松町	6分 3 駅 山手線	JR東京	35分 8 駅 総武線(快速)	JR 稲毛	3分 1 駅 総武線(各駅停車)	JR 西千葉
成田空港	42分 8 駅 総武線(快速)	JR千葉	3分 1 駅 総武線(各駅停車)	JR 西千葉				

千葉大学へのアクセス②



- JR 西千葉駅より西千葉キャンパス南門まで徒歩約 2 分
- 京成みどり台駅より西千葉キャンパス正門まで徒歩約 7 分
- 千葉都市モノレール天台駅より北門まで徒歩約 10 分

キャンパスマップ



懇親会場

日時：平成27年6月6日（土）18:00-19:30

場所：大学会館1F 生協フードコート2



大学会館1F
生協フードコート2
この辺りが入り口です。

会場案内

《大会前日 6月5日（金）図書館アカデミックリンクセンター・けやき会館》

プレセミナー受付	12:30-	図書館アカデミックリンクセンター 1F「まなび」前
プレセミナー	13:00-17:00	図書館アカデミックリンクセンター 1F「まなび」
理事会	17:30-19:30	けやき会館 3F 会議室 4

《大会第1日 6月6日（土）教育学部2号館・けやき会館》

受付	9:00-	けやき会館 1F エントランスホール
特定課題研究	9:30-12:00	教育学部2号館 1F 2112 教室
若手研究交流会	12:00-13:00	教育学部2号館 2F 2205 教室
総会	13:00-14:00	教育学部2号館 2F 2208 教室
ポスターセッション	14:00-15:00	教育学部2号館 1F 2111 教室
個人発表	15:00-17:30	教育学部2号館 1F 2108, 2109 教室 2F 2201, 2202, 2203, 2204 教室
共同発表	15:00-17:00	教育学部2号館 2F 2207, 2208 教室

各種委員会

広報・情報化委員会	12:00-13:00	けやき会館 2F 会議室 1
企画・交流委員会	12:00-13:00	けやき会館 2F 会議室 2
紀要編集委員会	12:00-13:00	けやき会館 3F 会議室 4
研究委員会	17:30-18:30	けやき会館 3F 中会議室

懇親会	18:00-19:30	大学会館 1F 生協フードコート 2
-----	-------------	--------------------

《大会第2日 6月7日（日）教育学部2号館、けやき会館》

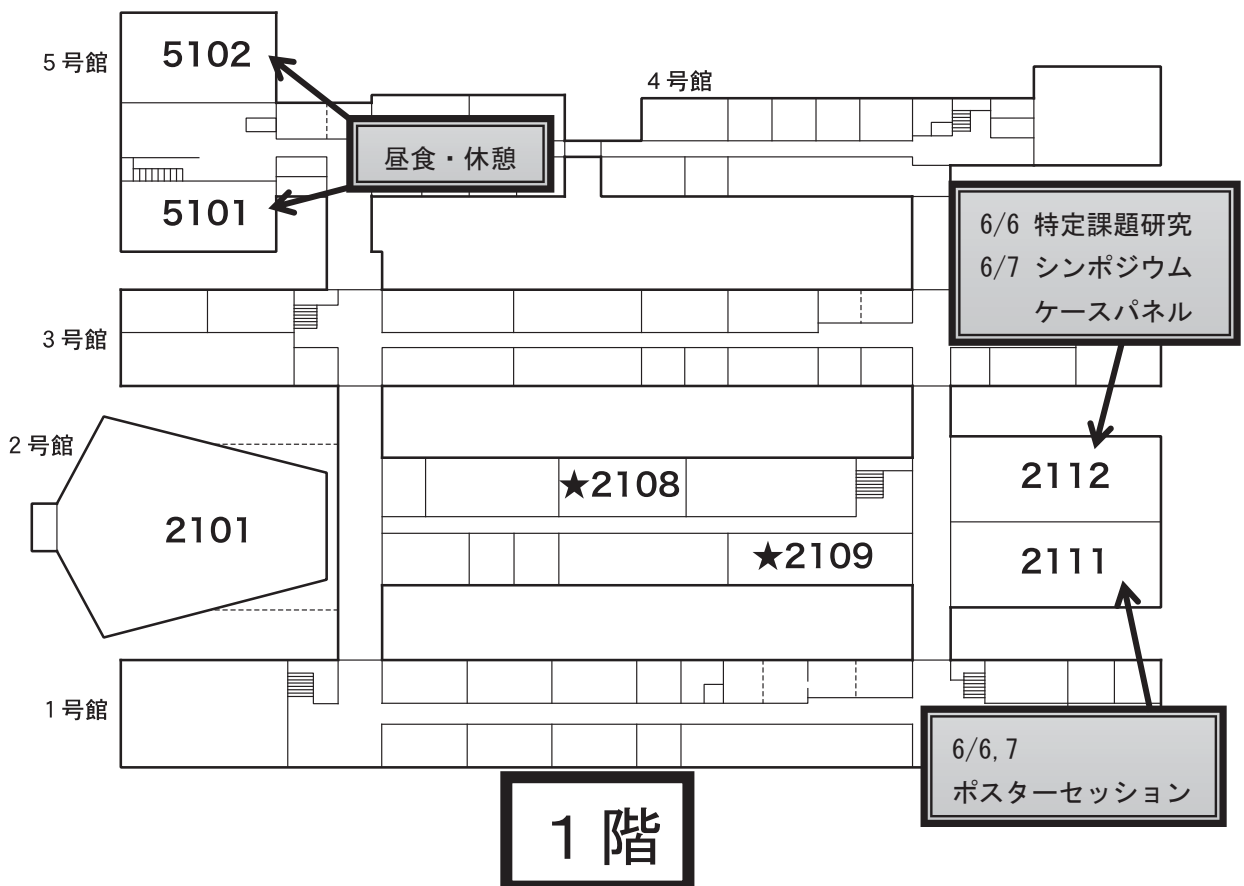
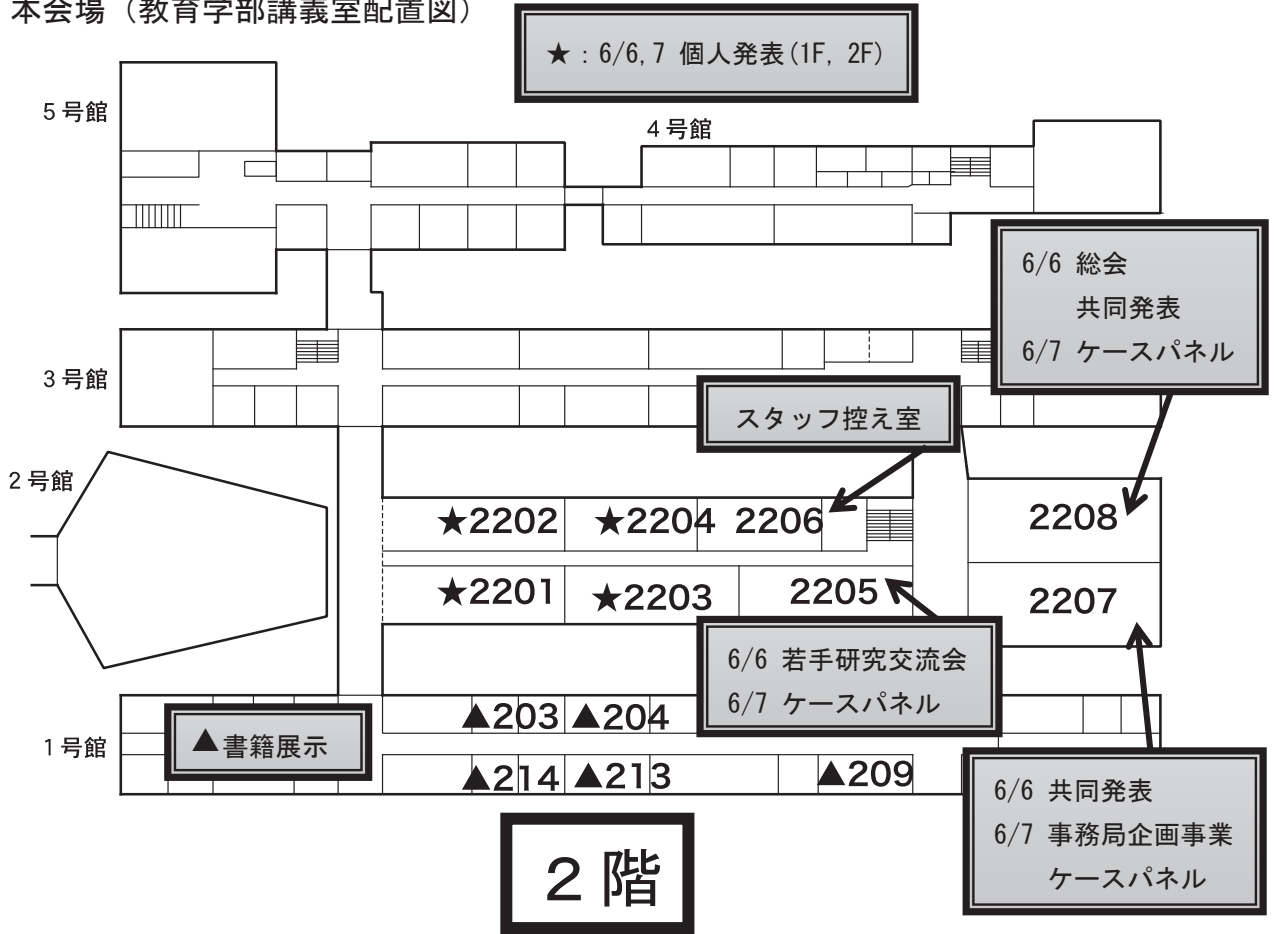
受付	9:00-	けやき会館 1F エントランスホール
公開シンポジウム	9:30-12:00	教育学部2号館 1F 2112 教室
事務局企画事業	12:00-14:00	教育学部2号館 2F 2207 教室
ポスターセッション	14:00-16:30	教育学部2号館 1F 2111 教室
個人発表	14:00-16:30	教育学部2号館 1F 2108, 2109 教室 2F 2201, 2202, 2203, 2204 教室
ケース・パネル発表	14:00-15:30	教育学部2号館 1F 2112 教室 2F 2205, 2207, 2208 教室

■書籍展示	教育学部1号館 2F 203, 204, 209, 213, 214 教室
■昼食会場・休憩室	教育学部5号館 1F 5101, 5102 教室
■大会本部	けやき会館 3F レセプションホール
■学会本部	けやき会館 3F レセプションホール
■スタッフ控室	教育学部2号館 2F 2206 教室
■クローク	第1日 9:00-18:00 けやき会館 2F 会議室 3 第2日 9:00-16:30 けやき会館 2F 会議室 3

※クロークへお預入れの際に預かり証をお受け取りください。貴重品はお預かりできません。

フロアマップ

■ 本会場（教育学部講義室配置図）



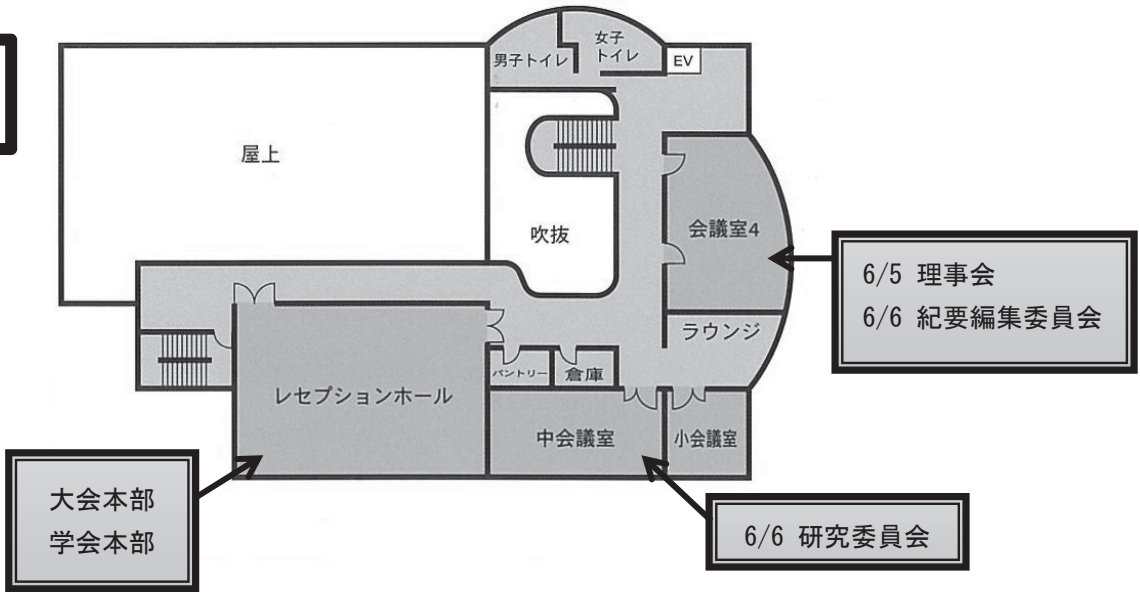
■ プレセミナー（アカデミックリンクセンター1Fまなび）



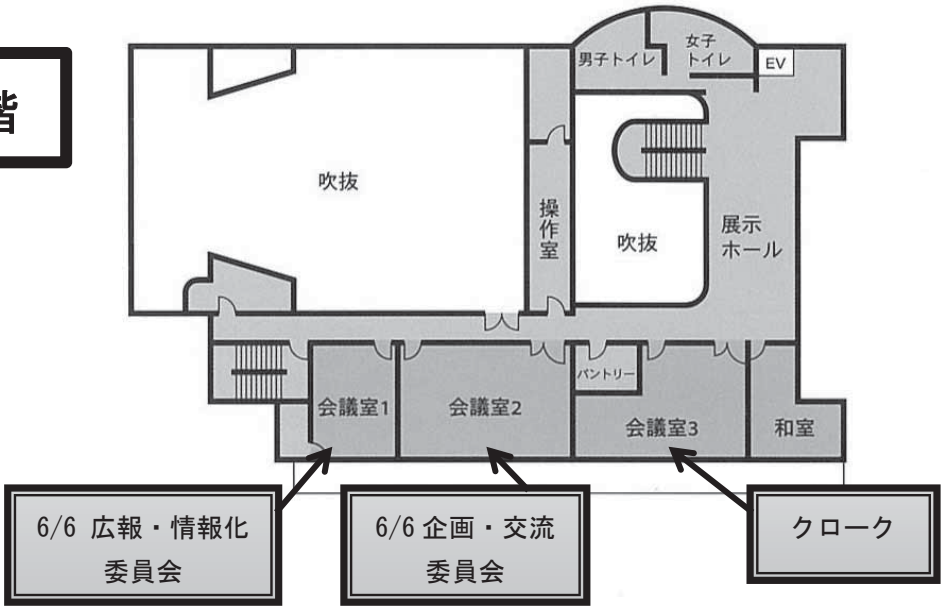
この辺りが入り口です。
1F「まなび」というガラス張りの教室となります。

■ 受付・学会・大会本部（けやき会館）

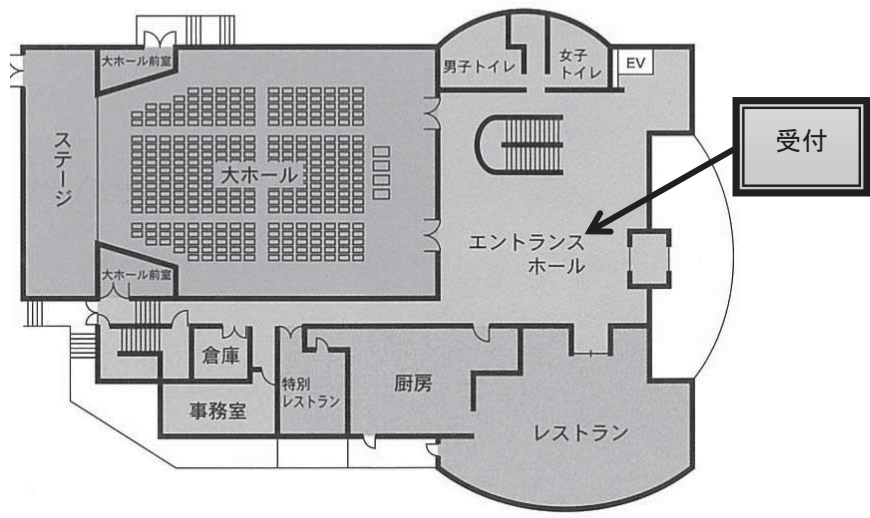
3階



2階



1階



プレセミナー

日時：6月5日（金）13：00～17：00

場所：千葉大学 アカデミックリンクセンター1F まなび

グローバル社会におけるリベラルアーツ教育への提案

—言語的・文化的多様性を持った学生間における協働学習のためのアプローチ—

グローバル化の加速する今日、幅広い知識と批判的・多元的視点を提供するリベラルアーツ教育の必要性が高まっています。リベラルアーツ教育では、学生が共有する社会文化的背景を始点としますが、異文化接触が日常となった現代社会においては、ローカルな文化—日本においては「日本文化」—に目を向け、それを学びの資源とすることが益々重要になってきました。

「日本」を学び、異なる社会文化的背景のある人々に「日本文化」が何かを伝えるのは容易ではありません。「日本文化」というと、ともすれば私たちはステレオタイプ的な伝統や現代性といったものを想起しがちです。しかしながら、文化は、地理や国境に関係なく、常に変容し、混ざり合い、進化するものです。それを理解するためには、多元的なものの見方と自己を相対化する視点が求められます。

本セミナーでは、個々に内在している固定概念をひとつひとつ再考し、単なる風聞や個人的な経験だけでなく、トピックに関する多角的な知識を用いて、論理的に組み上げ、多元的なものの見方を構築し、自己を相対化していくプロセスを、協働学習を通して体験してみます。

その擬似体験をもとに、言語・文化的相違の多様性や予備知識の差異がある中での学び合いを通して、多元的・多角的視点やより深い気づきを獲得し、自己を相対化していくためのよりよい教授方法について考えていきます。

本セミナーはワークショップ形式で行います。

- 講師： 吉野 文 （千葉大学）
ガイタニディス ヤニス （千葉大学）
小林 聡子 （千葉大学）

- コメンテーター： 渡部 淳（日本大学）

- 募集人員： 20名程度

- プレセミナー参加費： 学生会員 3,000円 正会員・通信会員 4,000円
非会員 5,000円 非会員（学生） 4,000円

- お問い合わせ先： 異文化間教育学会第36回大会ヘルプデスク iesj-desk@bunken.co.jp

特定課題研究

日時：6月6日（土）9：30～12：00

場所：千葉大学 教育学部 2号館 1F 2112

異文化間教育学における実践・現場への接近法

ー現場へのまなざしを研究行動へ展開するー

第35回大会の特定課題研究「実践をまなざし、現場を動かす異文化間教育学とは」を受け、第36回大会では、研究という営為を「その新たなまなざしの行動への展開」と捉え、「接近法」に目を転じて議論する。異文化間教育研究の実践への新たなまなざしは、どのような実践の営みに着目し、どのように研究知見を析出し、その成果をどのように表現することによって、研究という営みの中に編み込めるのか。そして、その成果を、誰に向けてどのように伝えることで、現場を動かせるのかを議論する。そのために、特定課題研究では、異文化間教育の多角的で複層的なまなざしをもって実践・現場に関わりながら研究を行っている方に登壇いただき、自身の研究について語っていただく。その研究のプロセスを共有した上で、異文化間教育学の実践・現場への接近法について、次の2点から議論する。

視点1 研究者と実践・現場との関わり

研究者のまなざしの多様性は、実践・現場との関わり方の多様性にも通ずる。研究者自身の研究観、研究者の専門性と対象となる実践との親和性、現場の状況、実践者の研究者観等の諸要因が複合的に作用して決定される。その違いは研究プロセスを大きく左右する。特に、データの解釈から考察へと深める段階に、研究者自身の有する研究の実践性に対する一種のイメージが映し出されると考えられる。ここに着目することによって、異文化間教育学が「実践の意味の探究」を行う方法について一定の整理を試みる。

視点2 研究成果の表現方法・伝達方法とその評価

研究知見を誰と共有し、どのような社会的価値を付与しようとするかによって、成果の表現方法も伝達方法も異なるものとなる。異文化間教育学が現場の成長・変革を促すには、その研究成果をどのようなものとして作成するのか、また、いつ、どこで、誰に向けて、どのように公開するのかが大きく問われる。更に、異文化間教育学の実践性をどう評価し、その評価をどこに向けて見せていくのかが、本学問領域の今後を展望する上で重要な論点となる。

■ コーディネータ 齋藤 ひろみ（東京学芸大学）

- | | |
|--------------------------------|-------------|
| 発題1 「私の現場・実践への接近法」実践のデザイナーとして | 岸 磨貴子（明治大学） |
| 発題2 「私の現場・実践への接近法」実践のアドバイザーとして | 内田 千春（共栄大学） |
| 発題3 「私の現場・実践への接近法」実践の当事者として | 南浦 涼介（山口大学） |

■ ディスカッション 野津 隆志（兵庫県立大学）

■ 企画：研究委員会

- | | |
|----------------------|------------------|
| 齋藤 ひろみ（委員長 東京学芸大学） | 佐藤 郡衛（副委員長 目白大学） |
| 野山 広（副委員長（独）国立国語研究所） | 浜田 麻里（京都教育大学） |
| 見世 千賀子（東京学芸大学） | 南浦 涼介（山口大学） |

第36回大会企画 公開シンポジウム

千葉県教育委員会後援 千葉市教育委員会後援 市原市教育委員会後援

日時：6月7日（日）9:30～12:00

場所：千葉大学 教育学部 2号館 1F 2112

教師のエンパワーメントを考える

ー外国につながる子どもたちを含めた教室・学校づくりのためにー

世界のグローバル化の中で、日本に在住する外国人の数は増加しており、学校現場においても外国につながる子どもたちが増加しています。

今、日本の公立学校には、日本に来たばかりの外国籍の子どもだけでなく、日本で生まれ育ってきた子どもなど、成育歴や言語・文化的背景もさまざまな「外国につながる子どもたち」が多く在籍するようになっています。

多文化化の一途をたどる学校現場では、教師ひとりひとりが外国につながる子どもたちの存在を受けとめ、異文化事態で求められる多角的なものの見方や洞察力を身につけ、主体性をもってその力を教育実践につなげていく教師の自己教育力が求められています。

そして、この自己教育力は、多様化する学校現場のさまざまな課題への対処に共通して必要とされる力であろうと考えます。

本シンポジウムでは、外国につながる子どもたちや保護者との直接的接触の中で戸惑い、葛藤しながら教育実践を行っている現場の教師のパネルディスカッションを通して、多様化する日本における教師のエンパワーメントについて考えていきます。

教育の国際化の推進力となっているのはまさに現場の教師です。

■ 企画・司会

新倉 涼子（千葉大学、大会委員長）

■ パネリスト

丹羽 由香里（千葉市立柏井小学校）
三橋 昌平（千葉市立高浜第一小学校）
長島 田鶴子（君津市立亀山中学校）
田中 恵理子（市原市立海上小学校）
宮郷 陽子（千葉県立千葉商業高等学校）

■ コメンテーター

馬淵 仁（大阪女学院大学）
白谷 秀一（多文化フリースクールちば代表）

※参加費無料、どなたでもご参加いただけます。

事務局企画事業 『温故知新～学会の未来に向けて～』

日時：6月7日（日）12:00～14:00（受付開始 11:30）

場所：千葉大学 教育学部 2号館 2F 2207

異文化間教育学会の創立 35 周年を振り返り、大会二日目に開催しますのでご案内いたします。

理事長 加賀美 常美代

テーマ：『温故知新～学会の未来に向けて～』

本学会の発足当時を知る 3 人の先生方、星野命名誉会員、中西晃名誉会員、箕浦康子名誉会員に学会の創立の経緯や学会立ち上げから現在までの変化、学会の現在と未来について語っていただきました。

本大会では 3 名の先生方のインタビューのダイジェスト版をご覧いただきながら、会員のみなさまにワールドカフェ形式で学会の今と今後について考えお話する機会にしたいと思います。軽食もご用意し、多くの方々のご参加をお待ちしております。

■ ファシリテーター

工藤 和宏会員（獨協大学）

■ 募集人員

100 名（要事前申し込み）

■ 参加費

無料（軽食がでます。）

■ お申し込み方法

参加をご希望の方は、大会 HP>参加/発表申込 よりお申込みください。
お申し込み後に送信される登録受け付け完了メールをお送りします。

■ 申込み問い合わせ先

異文化間教育学会大会ヘルプデスク iesj-desk@bunken.co.jp

■ 企画問い合わせ先

異文化間教育学会事務局 iesj@tmu.ac.jp

担当 学会事務局

小柳 志津会員（首都大学東京）

岡村 郁子会員（首都大学東京）

杉村 美紀会員（上智大学）

つながりカフェ～若手研究交流会

日時：6月6日（土）12:00-13:00

場所：千葉大学 教育学部2号館 2F 2205

異文化間教育学会研究委員会では、第35回大会（昨年）より「つながりカフェ」と題して若手研究者の交流の場を提供しています。自身を「若手」と思われる方なら、どなたでも参加いただけます。昼食を取りながら気軽な雰囲気での交流できたらと考えています。ふるってご来場ください。

※昼食は各自ご持参ください。

■ 「つながりカフェ～若手研究交流会とは～」

21世紀に入り我々の周囲では異文化間教育をめぐって次々と新たな課題が生起してきており、この領域の重要性はますます増してきています。こういった課題に対応するためには、若々しい知性がこの分野において思う存分に活躍できるような場づくりが必要です。

「つながりカフェ」は、若手研究者を支援する環境づくりとして、(1)異世代間の対話、(2)同世代の連帯、の二つを実現することを目指します。

今回は参加者に10年後の社会と社会の変革を踏まえ、自分の研究を表現して頂くとともに、それに興味関心を持った様々な分野の研究者からフィードバックをもらい、「つながり」を作ることを目指します。

■ テーマ

10年後の社会と異文化間教育学の取り組み：研究成果の共有と課題の問い直し

■ 企画・運営

齋藤 真宏会員（旭川大学）

中川 祐治会員（福島大学）

■ 概要

最初に参加者は各自の研究テーマについて簡潔に表現（絵でも可、文章であればワンフレーズぐらい）します。フリータイムでは興味関心を持った研究者とそれが10年後の社会をどのように見通すことになるのか、社会的変革にどのように寄与できるのかといった観点から議論します。お互いの研究の関連性や共同研究の可能性を探りながら、これまでの研究成果について意味付けし直すことにつながることも視野に入れています。「つながりカフェ」の名前の通り、新しい「つながり」を作って頂ければ幸いです。

※なお次回37回大会では、この若手研究交流会の企画を公募します。興味・関心がおありの方はご応募ください。

異文化間教育学会研究委員会

発表について

研究発表は、以下の種別で行なわれます。発表者、題目、時間帯、会場などの詳細は、それぞれの部会のページをご覧ください。

個人発表

共同発表

ケース／パネル発表

ポスターセッション

■ 個人発表、共同発表、ケース／パネル、ポスターセッション 発表要領

1. 発表時間（交代時間を含む）

- | | |
|--------------|--------------------|
| A. 個人発表 | 30分（発表20分、質疑応答10分） |
| B. 共同発表 | 60分（発表40分、質疑応答20分） |
| C. ケース／パネル発表 | 90分（発表50分、質疑応答40分） |

※会場での運営は、各グループでお願いいたします。

参加者による質疑応答の時間を確保するようご配慮ください。

- | | |
|--------------|--------------------------------------|
| D. ポスターセッション | 6月6日（土）14:00-15:00（在席時間：14:00-15:00） |
|--------------|--------------------------------------|

※上記の時間帯は持ち場を離れないでください。会場は12:00からご使用いただけます。翌日の7日（日）16:30まで掲示しておいて下さい。

6月7日（日）14:00-16:30（在席時間：14:00-15:00）

※在席時間を設けていますが、必ずしも持ち場にいる必要はありません。

16:30にポスターを撤去して下さい。2日目に会場にいない方に関して

は、大会準備委員会に事前にご相談下さい。17:00までに撤去されないポスターに関しては、事務局の方で処分致します。

ポスターパネルのサイズは横90cm×縦180cmです。

2. 配布資料

- ハンドアウトを配布される方は、1発表につき50部程度ご用意ください。なお、大会準備委員会では印刷をお受けすることはできませんことを予めご了承ください。
- 停電などによりPCが使用できない場合にお備えください。

3. 使用機器

- 発表を申し込まれた方には、別途機材などに関するご案内をお送りいたします。
- 会場校にて各教室にPCとプロジェクタを用意しますが、万が一接続などの問題が発生した場合に備え、ご自身のノートPCもお持ちください。Macの場合はVGAアダプタもご用意ください。
- 機材の操作は発表者ご自身で行なってください。

4. 発表者欠席の場合

- やむを得ない事情により発表者が欠席する場合には、できるだけ前日までに大会準備委員会にお知らせください。

※第36回大会準備委員会 e-mail: cireglobal@chiba-u.jp

- 発表取りやめがあっても、プログラムの繰り上げはいたしません。

異文化間教育学会「優秀発表賞」について

異文化間教育学会では、異文化間教育学の発展を期して、学会員の研究発表を奨励し、研究発表の向上を図ることを目的として、「優秀発表賞」を設けています。この賞は、若手の研究者を対象に、当該大会における「個人研究の個人発表」の中から、優秀と評価された発表に与えられるものです。

この発表賞は、今大会で第4回目になりますが、昨年度の大会と変更があります。すでに大会HP等でも示してあるとおり、優秀発表賞の審査を受けるためには、発表者自身が受賞資格の条件（注）のいずれかに該当することを申告し、審査対象となる意思を表明する必要があります。

審査方法については、エントリーされた発表ごとに2名の評価者（研究委員会により委嘱）が会場で評価します。選考方法については、学会HPに掲載してある選考手続きおよび規定に基づき、別途、優秀発表賞審査委員会を設置します。その後、本賞は審査委員会による選考が行われ、理事会の承認を得て決定されます。

今大会が第4回目となる「優秀発表賞」の実施にあたり、どうぞ大会参加会員各位のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

（注）発表者が応募時に以下のいずれかに該当する場合、受賞資格を有するものとする。

- 大学院修士課程もしくは大学院博士課程に在学中である。
- 修士課程修了後10年以内である。
（複数の修士課程を修了した場合は、最後に修了した修士課程が対象）。
- 最終学歴が学部卒業の場合は、卒業後12年以内である。
修了後の期間は、修了・卒業月の末日を修了日として起算する。例えば、大学院修士課程修了者で、3月修了の場合は、3月31日を修了日として、10年後の3月31日までが受賞資格を有する期間とする。

異文化間教育学会
理事長 加賀美 常美代

研究発表プログラム

※すべて教育学部2号館が会場となります。

個人発表

6月6日(土) 15:00-17:30	会場 (1F 2108 教室)	会場 (1F 2109 教室)
	会場 (2F 2201 教室)	会場 (2F 2202 教室)
	会場 (2F 2203 教室)	会場 (2F 2204 教室)
6月7日(日) 14:00-16:30	会場 (1F 2108 教室)	会場 (1F 2109 教室)
	会場 (2F 2201 教室)	会場 (2F 2202 教室)
	会場 (2F 2203 教室)	会場 (2F 2204 教室)

共同発表

6月6日(土) 15:00-17:00	会場 (2F 2207 教室)	会場 (2F 2208 教室)
---------------------	-----------------	-----------------

ケース/パネル発表

6月7日(日) 14:00-15:30	会場 (1F 2112 教室)	会場 (2F 2205 教室)
	会場 (2F 2207 教室)	会場 (2F 2208 教室)

ポスターセッション

6月6日(土) 14:00-15:00	会場 (1F 2111 教室)
---------------------	-----------------

在席時間 14:00-15:00

6月7日(日) 14:00-16:30	会場 (1F 2111 教室)
---------------------	-----------------

在席時間 14:00-15:00 (発表者の都合により不在の場合もあります。)

個人

共同

ケース／パネル

ポスター

個人発表

1F 2108 教室

6月6日(土)

司会：杉原 由美 (慶應義塾大学)

足立 祐子 (新潟大学)

- 15:00—15:30 混住寮の生活では何が学ばれているのか—レジデント・アシスタントの語りを中心に—
吉田 千春 (明治大学大学院博士後期課程)
- 15:30—16:00 研究者の倫理的ポジショナリティの省察
—周縁化されたニューカマー青年との協働メディア制作を通して—
岩瀬 正幸 (ブリティッシュコロンビア大学教育学部教育研究学科博士課程)
- 16:00—16:30 異なる専門分野の人々は言語学習の場で共に「学ぶ」ことができるのか
佐野 香織 (早稲田大学)
- 16:30—17:00 劇創りの活動がもたらす異文化間交流を促す教育環境
—留学生と日本人ボランティア大学生との協働を通して—
柴田 あづさ (九州大学大学院)
- 17:00—17:30 英語を共通言語とする大学院における異文化間コミュニケーション教育の役割
—コミュニティ形成の観点から—
田崎 敦子 (東京農工大学国際センター)

個人発表

1F 2109 教室

6月6日(土)

司会：三浦 綾希子 (中京大学)

鍛冶 致 (大阪成蹊大学)

- 15:00—15:30 台湾生まれのニューカマーの文化統合過程
市川 章子 (一橋大学大学院 言語社会研究科)
- 15:30—16:00 アメラジアンスクールにおける生徒の当事者性の変容についての考察
—「国境を越えて移動する人物」に焦点を当てた社会科授業実践を通して—
北上田 源 (琉球大学非常勤講師)
- 16:00—16:30 多文化社会ドイツに生きる「私」を物語る試み
—青少年の日常性から出発する異文化間教育の実践—
伊藤 亜希子 (福岡大学)
- 16:30—17:00 帰国生の語りに見るアイデンティティ形成
—言語習得と自己形成の関係性に着目して—
成田 悠莉野 (ALLEX)

個人発表

2F 2201 教室

6月6日(土)

司会：塚本 美恵子(駿河台大学)

宇土 泰寛(椋山女学園大学)

- 15:00-15:30 大学生の持つ“常識”や“価値観”について—異文化トレーニング学習支援システムより見えてきた傾向—
加藤 優子(仁愛大学)
- 15:30-16:00 大学生は発達障害のある生徒の生きにくさをどのように認識しているか—当時の同級生や教師の態度との関連から—
満田 琴美(お茶の水女子大学大学院博士後期課程)
- 16:00-16:30 在日コリアンの韓国・朝鮮語使用に関わる社会的な要因—日韓バイリンガルのオールドカマーとニューカマーの言語使用について—
梁 熙貞(関西学院大学大学院研究員)
- 16:30-17:00 在籍クラスと支援クラスとの学びをつなげた授業実践—日本語指導が必要な児童に対する教科学習支援—
矢崎 満夫(静岡大学教職大学院)

個人発表

2F 2202 教室

6月6日(土)

司会：吉野 文(千葉大学)

結城 恵(群馬大学)

- 15:00-15:30 複言語環境で育つ年少者の言語能力の育成に対するロシア語教師の意識—日本語とロシア語のルーツを持つ子どもを事例に—
チモシェンコ ナターリア(お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科)
- 15:30-16:00 国際結婚家庭の言語使用の変遷—在韓日本人母を中心として—
花井 理香(関西学院大学大学院研究員)
- 16:00-16:30 カンボジア難民の第2世代の学校経験・学校・就職—カンボジア的女性観に着目して—
チューブ サラーン(日本大学大学院)
- 16:30-17:00 外国人散在地域における学校と外国人の母親の意識調査：越谷市の教員と外国人の母親の意識に基づいて
奥村 裕子(越谷市国際交流協会)
- 17:00-17:30 海外生活が駐在員の配偶者の家族観に与える影響—4人の配偶者女性の語りから—
三浦 優子(立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科)

個人

共同

ケース／パネル

ポスター

個人発表

2F 2203 教室

6月6日(土)

司会： 安場 淳 (中国帰国者定着促進センター)
中井 好男 (大阪大学)

15:00-15:30 多文化社会における公正な社会的判断力の育成 —クラウド環境を活用した授業実践と多文化教育の課題
川崎 誠司 (東京学芸大学)

15:30-16:00 言語教育・市民性教育・ESDの一体化を目指して 言語／国家／開発を検討する
横田 和子 (目白大学)

16:00-16:30 「対立」と「合意」をテーマにした中学校社会科(公民的分野)学習指導案作成からの学生たちの気づき—平取ダム建設の是非をめぐって—
齋藤 眞宏 (旭川大学)

16:30-17:00 海外体験学習を通じたレジリアンス育成
—大学におけるESDとしてのグローバル教育実現へ向けた視点から—
二ノ宮リム さち (東京農工大学 国際センター)

17:00-17:30 ヒューマンライブラリー実践報告
—市民活動としてのヒューマンライブラリー—Nagasakiの取り組み—
宮崎 聖乃 (長崎外国語大学)

個人発表

2F 2204 教室

6月6日(土)

司会： 工藤 和宏 (獨協大学)
田中 共子 (岡山大学)

15:00-15:30 海外短期研修は学生にどのような変化をもたらすか
小柳 志津 (首都大学東京)

15:30-16:00 短期海外研修の学びと異文化コミュニケーション教育
藪田 由己子 (清泉女学院短期大学)

16:00-16:30 短期語学研修から長期留学へ —大学主催プログラム参加学生へのインタビュー調査より—
小林 美文 (立教大学)

16:30-17:00 青年海外協力隊50周年記念によせて—帰国後隊員の活用—
岩下 康子 (広島文教女子大学)

個人発表

1F 2108 教室

6月7日(日)

司会：花井 理香(関西学院大学)

奥村 裕子(越谷市国際交流協会)

- 14:00-14:30 外国につながるのある児童への就学前日本語教室の役割
—大垣市プレスクール きらきら教室の取り組み—
内田 千春(共栄大学)
- 14:30-15:00 JSL 生徒と日本人生徒の協働学習の可能性—「包括的年少者日本語教育」という視点—
齋藤 昭子(東北大学大学院文学研究科博士後期課程)
- 15:00-15:30 日本語指導担当教員による日本語指導が必要な児童のアセスメントの特徴
山田 有芸(筑波大学大学院人間総合科学研究科)
- 15:30-16:00 学習力を育てる日本語指導 —基本となる日本語指導と教科との関係—
田中 薫(公益財団法人とよなか国際交流協会・とよなかJSL)
- 16:00-16:30 地域日本語教室におけるコーディネーターの役割に関する一考察
結城 恵(群馬大学)

個人発表

1F 2109 教室

6月7日(日)

司会：浅井 亜紀子(桜美林大学)

上田 和子(武庫川女子大学)

- 14:00-14:30 韓国系ニューカマー生徒の進路選択と将来展望
—日本生活経験に対する意味づけを通して—
李 和静(東京大学大学院)
- 14:30-15:00 ニューカマー1.5世の大学進学と大学生活—留学生と日本人学生の狭間で—
三浦 綾希子(中京大学)
- 15:00-15:30 外国にルーツをもつ子どもの人口規模と進学率の年次推移—子どもたちの家庭背景
と時代背景に着目して—
鍛冶 致(大阪成蹊大学)
- 15:30-16:00 日本の中学校教師の教授戦略—中国の農村中学校との比較から—
劉 麗鳳(日本大学大学院)

個人発表	2F 2201 教室	6月7日（日）
-------------	-------------------	----------------

司会：川崎 誠司（東京学芸大学）
横田 和子（目白大学）

14:00—14:30 「多様性」の概念についての批判的視座からの一考察 —日本の国際化とカナダの多文化主義に着目して—

塚田 英恵（ブリティッシュ・コロンビア大学）

14:30—15:00 異文化間教育学と「居場所」理論の接続可能性—『異文化間教育第40号』における特集の考察—

奴久妻 駿介（一橋大学 博士後期課程）

15:00—15:30 「〇〇国を紹介する」という表象行為 —そこにある「常識」を問う—

オーリ リチャ（千葉大学）

15:30—16:00 多文化コミュニケーション授業をカリキュラムマネジメントの観点から省察する —留学生・帰国生・日本人大学生の汎用的スキル育成にむけて

杉原 由美（慶應義塾大学 総合政策学部）

個人発表	2F 2202 教室	6月7日（日）
-------------	-------------------	----------------

司会：宮崎 聖乃（長崎外国語大学）
稲田 素子（立教大学）

14:00—14:30 高齢の中国帰国者が出会う介護現場の異文化 —「異文化間介護」の一領域として—

安場 淳（中国帰国者定着促進センター）

14:30—15:00 シンガポールにおける移民統合プログラム—外国人労働力と移民の受入れ政策から—

岡本 佐智子（北海道文教大学）

15:30—16:00 移民から移民への日本語支援—在日外国人支援者による日本語教育の意義—

志喜屋 カロリーナ（首都大学東京大学院博士前期課程）

16:00—16:30 フィリピン人介護福祉士候補者のネットワークとその機能に関するケース・スタディ

中井 好男（大阪大学文学研究科）

個人発表

2F 2203 教室

6月7日(日)

司会：佐野 香織 (早稲田大学)

田崎 敦子 (東京農工大学)

- 14:00-14:30 複言語・複文化主義に基づく言語教育—スイスの Passepartout の事例から—
福田 浩子 (茨城大学)
- 14:30-15:00 Interdependent Approach を用いた異文化間 1 対 1 会話教育の実践と検証
—日豪間の学級を 1 人 1 台のライブ動画で繋ぐ外国語教育事業 2014 年度報告—
奥村 聡 (一般社団法人 CCC プロジェクト代表理事)
- 15:00-15:30 外国語活動における英語の多様性への意識—児童の自由記述に注目して—
加藤 あや美 (桜花学園大学)
- 15:30-16:00 第 2 文化習得 —第 2 言語教育で考える社会文化的側面—
大味 潤 (尚美学園大学)

個人発表

2F 2204 教室

6月7日(日)

司会：塘 利枝子 (同志社女子大学)

北上田 源 (琉球大学)

- 14:00-14:30 子どもたちの描画に見られる文化の影響
—日本とブラジルの小学校での視聴調査の結果から—
塚本 美恵子 (駿河台大学)
- 14:30-15:00 世界の日本人学校をつなぐグローバルプロジェクトに向けて
—グローバルイシューの問題解決学習を通して—
宇土 泰寛 (椋山女学園大学)
- 15:00-15:30 外国人児童の言語発達に影響する言語環境要因
中村 諭実子
- 15:30-16:00 文化間移動する子どもの学力問題と学習意欲について
—中国にルーツを持つ子どもの学習・進路支援を通して—
李 原翔 (ユーローアジア人間科学研究所)

個人

共同

ケース／パネル

ポスター

共同発表

2F 2207 教室

6月6日(土)

司会：岡本 佐智子（北海道文教大学）

見世 千賀子（東京学芸大学）

15:00-16:00 **アジア新興国における海外体験プログラム—フィリピンでの実例から—**

小林 葉子 （岩手大学人文社会科学部）

尾中 夏美 （岩手大学グローバル教育センター）

宇治谷 映子 （名古屋外国語大学英米語学科）

16:00-17:00 **自分史の掘り起こしと多文化教師教育者としてのアイデンティティ形成
—対話的なナラティブ分析の試み—**

物部 ぐみ子 （ケント州立大学）

内田 千春 （共栄大学）

共同発表

2F 2208 教室

6月6日(土)

司会：鈴木 一代（埼玉学園大学）

太田 浩（一橋大学）

15:00-16:00 **在韓インドネシア人移住労働者の韓国語習得—渡韓前後の学習を中心に—**

吹原 豊 （福岡女子大学）

松崎 真日 （福岡大学）

助川 泰彦 （首都大学東京）

16:00-17:00 **異文化間研究における政策と個人—IJEP と JET の比較を通して—**

浅井 亜紀子 （桜美林大学）

箕浦 康子 （お茶の水女子大学）

ケース／パネル発表 2F 2207 教室 6月7日（日）

14:00—15:30 **グローバル時代の日本語教育事情と教師の立ち位置—米国・韓国を中心に—**

共同発表者,司会者	倉地 曉美	(広島大学大学院教育学研究科)
共同発表者	中山 亜紀子	(佐賀大学全学教育機構)
共同発表者	加藤 鈴子	(九州工業大学学習教育センター)
ディスカッサント	上田 和子	(武庫川女子大学 文学部)

ケース／パネル発表 2F 2208 教室 6月7日（日）

14:00—15:30 **実践をまなざし現場を動かす異文化間教育学とは2**
—「カンボジアにおける授業改善に関する研修」の実践を読み解く—

共同発表者,司会者	見世 千賀子	(東京学芸大学)
共同発表者	林原 慎	(福山平成大学)
ディスカッサント	齋藤 ひろみ	(東京学芸大学)
ディスカッサント	野山 広	(国立国語研究所)
ディスカッサント	浜田 麻里	(京都教育大学)
ディスカッサント	南浦 涼介	(山口大学)
共同研究者	佐藤郡衛	(目白大学)

ケース／パネル発表 1F 2112 教室 6月7日（日）

14:00—15:30 **外国人散在地域において「特別の教育課程」による日本語指導はどのように編成・実施されようとしているか**

共同発表者,司会者	土屋 千尋	
共同発表者	内海 由美子	(山形大学)
共同発表者	中川 祐治	(福島大学)
共同発表者	松岡 洋子	(岩手大学)
ディスカッサント	足立 祐子	(新潟大学国際センター)

個人

共同

ケース／パネル

ポスター

ケース／パネル発表 2F 2205 教室 6月7日(日)

14:00-15:30 日系国際児の多文化適応とその課題—異文化間カウンセリング・教育支援の視点から—

共同発表者,司会者	鈴木 一代	(埼玉学園大学)
共同発表者	李 原翔	(ユーロアジア人間科学研究所)
共同発表者	鈴木 ゆみ	(明治学院大学大学院)
共同発表者	津田 友理香	(四谷ゆいクリニック)
共同発表者	原 めぐみ	(大阪大学大学院)
ディスカッサント	新田 文輝	(吉備国際大学)
ディスカッサント	井上 孝代	(明治学院大学)

ポスター発表	1F 2111 教室	6月6日(土)	14:00-15:00	在籍時間
		6月7日(日)	14:00-16:30	在籍時間

発表者は、1日目の在籍時間には必ず在籍して下さい。

2日目の在籍時間に関しては任意の在籍となります。

1. 在仏日本人留学生の食の異文化適応—送り出し版異文化間食育への示唆—

田中 共子 (岡山大学社会文化科学研究科)

2. 在外生／帰国生であることへの「肯定度」が帰国高校生の特性およびその活用意識に及ぼす影響

岡村 郁子 (首都大学東京)

3. 留学生と日本人学生の協働作業を通じた異文化理解と地域貢献 —イングリッシュ・キャンプ事業の実践を通して—

尾中 夏美 (岩手大学グローバル教育センター)

4. 多元的地域コミュニティを支えるキーパーソンのコミュニケーション能力

松岡 洋子 (岩手大学国際)

足立 祐子 (新潟大学)

5. 日本の大学を卒業した外国人社員の職場満足に関する一考察 —業務遂行に必要な知識との関連に着目して—

鍋島 有希 (九州大学大学院)

6. 元国費学部留学生(文系)の活躍の鍵—つなぐ・つながる職業人—

菅長 理恵 (東京外国語大学留学生日本語教育センター)

中井 陽子 (東京外国語大学留学生日本語教育センター)

7. 台湾の国民意識と日本イメージの年代間比較

加賀美 常美代 (お茶の水女子大学大学院教授)

黄 美蘭 (お茶の水女子大学リサーチフェロー)

小松 翠 (お茶の水女子大学大学院博士後期課程)

8. グローバル人材育成と留学の長期的なインパクトに関する国際比較調査 —留学がその後のキャリアや人生に与える影響について—

新見 有紀子 (一橋大学)

横田 雅弘 (明治大学)

太田 浩 (一橋大学)

北村 友人 (東京大学)

9. 外国語・日本語話者に対する小学生がもつ期待について—国際学校における調査—

久津木 文 (神戸松蔭女子学院大学)

田中 佑美 (広島経済大学)

10. 日本人学生を対象としたムスリム文化アシミレーターの試作

中野 祥子 (岡山大学)

田中 共子 (岡山大学)

11. 多文化教員支援サイトの開発

浜田 麻里 (京都教育大学)

齋藤 ひろみ (東京学芸大学)

金田 智子 (学習院大学)

橋本 ゆかり (横浜国立大学)

市瀬 智紀 (宮城教育大学)

12. 国際学校における児童の日本語学習動機

田中 佑美 (広島経済大学)

久津木 文 (神戸松蔭女子学院大学)

13. 外国にルーツを持つ児童生徒への教育実践を再考する

—同じ学校に通った日本人大学生のインタビューから—

高橋 朋子 (近畿大学)

14. 大学はグローバル視野に立った教育を提供しているか—「共創空間」的対話からの気づき—

山下 美樹 (麗澤大学)

15. 「留学」—変化する高等教育の中で長期的観点から考える—

有川 友子 (大阪大学国際教育交流センター)

16. 外国にルーツを持つ就学前園児の語彙力—年少児から年長児まで—

鈴木 絵莉 (愛知教育大学外国人児童生徒支援リソースルーム)

山下 絵美 (愛知教育大学外国人児童生徒支援リソースルーム)

17. 国費学部留学生のSNSの利用についての考察

小松 由美 (東京外国語大学留学生日本語教育センター)

18. 日系ブラジル人集住コミュニティの言語景観と言語使用—群馬県大泉町と三重県伊賀市の比較—

齋藤 敬太 (首都大学東京大学院博士後期課程)

19. 日本語演劇プロジェクト授業実践報告—グループ活動における学習者間コミュニケーション—

中山 由佳 (早稲田大学)

中川 千恵子 (早稲田大学)

**20. 多言語・多文化環境での日本人保護者の教育意識と行動
—北米地域の日本語幼稚園における事例の考察—**

稲田 素子 (立教大学)

**21. 留学生はどのような観点によって日本語能力を評価しているのか
—テキストマイニングによる評価観点の分析—**

ローズ平田 昌子

(第一工業大学)

岩下 智彦

(早稲田大学日本語教育センター)

第36回大会 賛助団体ご芳名

明石書店

アカデミア出版会

学文社

風間書房

くろしお出版

勁草書房

ココ出版

東信堂

ナカニシヤ出版

ベネッセコーポレーション

(以上、五十音順)

本大会を開催するにあたり、上記の団体より多大なご支援をいただきました。ここにご芳名を記して、感謝の意を表します。

異文化間教育学会 第36回大会準備委員会
委員長 新倉 涼子

異文化間教育学会

異文化間教育

◆バックナンバーのご案内(分冊でも全冊でもご購入できます)

- 1 特集＝異文化間教育と教育の国際化 本体2300円＋税
- 2 特集＝異文化間教育と国際理解 本体2300円＋税
- 3 特集＝異文化間教育とコミュニケーション 本体2300円＋税
- 4 特集＝外国語としての日本語の教育 本体2300円＋税
- 5 特集＝在日留学生と異文化接触 本体2300円＋税
- 6 特集＝異文化接触と教育摩擦 本体2500円＋税
- 7 特集＝多文化教育と外国人教育 本体2500円＋税
- 8 特集＝異文化理解と言語教育 本体2500円＋税
- 9 特集＝異文化接触とアイデンティティ 本体2500円＋税
- 10 特集＝異文化間教育学の可能性—学会十五年の回顧と展望 本体2500円＋税
- 11 特集＝異文化間リテラシー 本体2500円＋税
- 12 特集＝異文化間教育の実践的展開—その理論と方法 本体2500円＋税
- 13 特集＝留学生支援システムの最前線 本体2500円＋税
- 14 特集＝小学校の英語教育—異文化間教育からの提言 本体2500円＋税
- 15 特集＝異文化間トランス (20周年記念) 本体3000円＋税
- 16 特集＝異文化受容の転機 本体2500円＋税
- 17 特集＝「総合的な学習」と異文化間教育 本体2000円＋税
- 18 特集＝地域ネットワークと異文化間教育 本体2000円＋税
- 19 特集＝越境のもたらすもの 本体2000円＋税
- 20 特集＝異文化間カウンセリングの今日的課題 本体2000円＋税
- 21 特集＝在日外国人教育の現在 本体2000円＋税
- 22 特集＝異文化間教育研究と「日本人性」 本体2000円＋税
- 23 特集＝異文化間教育の現在 本体2000円＋税
- 24 特集＝異文化間教育の語り直し—他者・境界・文節化 本体2000円＋税
- 25 特集＝異文化間教育と教師 本体2000円＋税
- 26 特集＝バイカルチュラル家族—複数の文化と言語が交叉するところ 本体2000円＋税
- 27 特集＝異文化間教育学会25年の回顧と展望 本体2300円＋税
- 28 特集＝地域におけるニューカマー支援と連携—異文化間教育学の視座から 本体2300円＋税
- 29 特集＝異文化間のコミュニケーションを考える 本体2300円＋税
- 30 特集＝多文化共生社会をめざして—異文化間教育の使命 本体2300円＋税
- 31 特集＝生涯を通しての「異文化間教育」 本体2300円＋税

異文化間協働—国際文化学の展開

小林哲也 森 聖雨 太田洋子 編著

四六判376ページ 定価(本体3500円＋税)

まえがき

第一部 国際文化学の展開—異文化をつなぐ関係性

- 1 国際文化学を学ぶ—アイデンティティと学際性をめぐって 小林哲也
- 2 国際文化の学を考える—体系としての確立をめざして 森 聖雨
- 3 国際文化学の源泉を探る—コスモポリタニズムという希望 佃 繁

第二部 文学から文化学へ—異文化間理解

- 1 自然と文化が巡り合う場所—つなぎ目としてのシドニーの庭園 大田垣裕子
- 2 宇宙のリズムへのつながり—児童文学の試み 大角洋子
- 3 文化の衝突を超えて—E.M.フォースター『天使も踏むを恐れるところ』 太田洋子
- 4 条理と不条理の間—ミユエル・スパーク『ブラック・マドンナ』 杉山克枝
- 5 日本文化の多元的認識と「南島」—「ヤポネシア」という視点 西尾宣明

第三部 多文化と相互理解—異文化間交流

- 1 相互理解のコミュニケーション—文化的背景の異なる場 樋口勝也
- 2 国際語としての英語—その功罪 伊達民和
- 3 多文化社会アメリカの葛藤と共生—黒人大学をめぐる 権 瞳
- 4 誤解させる日本という国—説明責任をとらない文化 西道 実

第四部 実践と理論への志向—異文化間協働

- 1 意識変容と協働の学習—海外体験がもたらすものマッセルホワイト、リンダ・ダイアン 松田浩志
- 2 異文化間協働の実践—ネパール研修 関 綾子
- 3 日本語「紹介」の活動—自己の文化の認識から意識の変容へ 亀井慶二
- 4 異文化における教育協力—ミャンマーでの経験をもちに 寺田恭子
- 5 「地域のつながり」と子育て支援—市民と行政による「食育」の協働 森定玲子
- 6 異文化間協働が拓く福祉社会—ボランティア活動は境界を越える 太田洋子

あとがき

アカデミア出版会

〒606-8315 京都市左京区吉田近衛町1-6 TEL.075-771-7055 FAX.075-771-9595

21世紀型スキルとは何か

コンピテンシーに基づく教育改革の国際比較

松尾知明 著

◎2800円

グローバルな知識基盤社会で必要とされる 21 世紀型スキル・コンピテンシー育成に取り組む EU、北米、オセアニア、アジア諸国の教育改革の動向を概観し、これからの日本の教育をデザインするためのヒントを提示する。

- 第 1 章 学校教育の革新を求めて
- 第 2 章 域内でキー・コンピテンシーの育成をめざす EU 諸国の教育改革
- 第 3 章 21 世紀型スキルの影響の大きい北米の教育改革
- 第 4 章 先進的に取り組むオセアニアの教育改革
- 第 5 章 世界トップレベルの学力を実現したアジア諸国の教育改革
- 第 6 章 日本の教育システムの革新に向けて



反転授業が変える教育の未来

生徒の主体性を引き出す授業への取り組み

反転授業研究会 編 芝池宗克、中西洋介 著

◎2000円

学力の向上はいまだけでなく、生きる力や主体性など生徒の新たな力を引き出す話題の「反転授業」。そのフロントランナーが具体的なノウハウを公開する。現場の教師が初めて書いた反転授業の実践紹介！



教員環境の国際比較

OECD 国際教員指導環境調査 (TALIS) 2013 年調査結果報告書

国立教育政策研究所 編

◎3500円

前期中等教育及び中学校の教員と校長を対象にした国際調査の結果から、教員の職能開発、校長のリーダーシップ、学校での指導状況、教員への評価とフィードバック、自己効力感や仕事への満足度などに焦点を当て、日本にとって示唆ある内容を整理・分析する。

多様性を拓く教師教育 多文化時代の各国の取り組み

OECD 教育革新センター 編著 斎藤里美 監訳

布川あゆみ、本田伊克、木下江美、三浦綾希子、藤浪海 訳

◎4500円

多様な人々の存在を社会にとっての財産にし、多様な背景をもつ子どもたちを社会のなかに包摂していくための鍵となるのは、教師である。本書は、各国の実践報告と OECD の教員調査から、教員養成と現職研修を見直すための有益な研究や調査を紹介する。

英語教育が甦るとき 寺島メソッド授業革命

山田昇司 著

◎2500円

英語大好きな学生が「もっと早く出会っていたら」と嘆き、帰国生も「こんな楽しい授業は日本に来て 5 年目で初めて」と驚く。そんな英語の授業を生み出す「寺島メソッド」の実践的大研究。「英語で授業」に翻弄される日本の英語教育再生のヒントがここにある。

日本の外国人学校

トランスナショナルリティをめぐる教育政策の課題

志水宏吉、中島智子、鍛冶致 編著

◎4500円

「外国人学校」17 校についてのエスノグラフィを通じ、それらにかかわる人々の多様な声をくみ上げ、その教育の可能性を多面的に描き出しつつ、今日の日本の学校教育システムが抱える諸課題をあり出す。

外国人の人権へのアプローチ

近藤敦 編著

◎2400円

日本に居住する外国人の権利は十分に守られているのか。外国人の権利を取り巻く国内法上の多くの論点を解説し、裁判例を分析しながら、人権条約や憲法に照らして問題を解決する指針を提示する。

日韓中で作る国際理解教育

日本国際理解教育学会、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) 共同企画

大津和子 編

◎2500円

日韓中それぞれの児童生徒が隣国の文化や歴史のつながりに興味・関心をもち相互理解を深められるようなカリキュラム・教材として、教育現場で広く活用できる指導案を多数紹介する。

アフリカの生活世界と学校教育

澤村信英 編著

◎4000円

教育制度や政策、統計の分析にとどまらず、子どもや教師、保護者、地域の人々の生活に寄り添った長期のフィールドワークにもとづき、教育の課題や教育開発研究のあり方を問い直す。

思春期ニューカマーの学校適応と多文化共生教育

実用化教育支援モデルの構築に向けて

潘英峰 著

◎5200円

異文化環境で学校教育を受ける外国人児童生徒を取り巻く社会的背景と教育状況を概観し、彼らこれからの教育支援のあり方について具体的な提案を行う。

ユネスコスクール 地球市民教育の理念と実践

小林亮 著

◎2400円

世界的な学校共同体として創設されたユネスコスクールは、日本でも急増している世界最大規模の学校間ネットワークである。その理念および世界各国および日本での実践についてまとめた待望の書籍。

連帯経済とソーシャル・ビジネス

貧困削減、富の再分配のためのケイパビリティ・アプローチ

池本幸生、松井範博 編著

◎2500円

マイクロクレジット、グラミン・ファミリー、有機農業、認証コーヒー、地域通貨など、世界中で行われている社会的企業の多くの事例を取り上げ、「連帯」をキーワードにその仕組みと効果を分析・概説する。

明石書店

〒101-0021 東京都千代田区外神田6-9-5 TEL.03-5818-1171 FAX.03-5818-1174
http://www.akashi.co.jp 振替00100-7-24505 *目録送呈 *価格税別

無名大学を 優良大学にする力

—ある大学の変革物語

ジョージ・ケラー 著

堀江 未来 監訳

本体
1366円
●
600円



大学の国際化と 日本人学生の国際志向性

横田雅弘・小林明 編著

本体
216円
●
200円



グローバリゼーションと 子どもの社会化 <改訂版>

帰国子女・ダブルスの国際移動と多文化共生

竹田美知 著

本体
4328円
●
500円



早稲田教育叢書 34

基礎から学ぶ比較教育学

長島啓記 編著

本体
2422円
●
3000円



<多文化共生>8つの質問

—子どもたちが豊かに生きる2050年の日本

佐藤友則 著

●本体2000円 176頁

途上国における基礎教育支援

上巻 一国際的潮流と日本の援助

小川啓一・西村幹子 編著 262頁

下巻 一国際的なアプローチと実践

廣里恭史・北村友人 編著 270頁

●本体 各2800円



教育課程・方法論 —コンピテンシーを育てる授業デザイン

松尾知明 著

●本体2300円 224頁

学校学力から生涯学力へ

前田耕司・佐藤千津 編著

●本体1700円 160頁

オーストラリアにおける障害のある生徒のトランジション支援

山中冴子 著

●本体3300円 224頁

生涯学習と多文化・多民族教育の研究

岩崎正吾 編著

●本体1800円 160頁

〒153-0064 東京都目黒区下目黒3-6-1
http://www.gakubunsha.com

学文社

Tel 03-3715-1501(代) Fax 03-3715-2012
E-mail: eigyo@gakubunsha.com

異文化接触における民族アイデンティティの役割

植松 晃子著 6500円
異文化環境での「アイデンティティ」を再考。異文化接触によるインパクトと心の影響について解明し、日本人留学生への心理的サポートのアプローチ法を示唆する。

ことばと文化の饗宴—西洋古典の源流と芸術・思想・社会の視座—

田中一嘉・中村美智太郎編著 2800円
文学・音楽・哲学・思想・歴史など各執筆者の専門領域によって「ことば」から「文化」をとらえ、その可能性を追求した新著。

グローバル化の中のポストコロニアリズム

大熊昭信・庄司宏子編著 3800円
環太平洋諸国における少数民族や移民の痛切な苦悩の体験から発生した文学的営為を考察。作家の個人的な文化的経験にも関心を注ぎ、間文化主義の可能性を探求する。

ブラジル人生徒と日本人教員の異文化間コミュニケーション

西田ひろ子編著 2800円
日本で就学しているブラジル人生徒を対象に、勉学の際の異文化適応問題をスキーマ理論から分析。教員と父兄のアンケートから生徒が抱える問題解決への道を探る。

感情心理学からの文化接触研究

小柳 志津著 9500円
異文化対人接触ではなぜ文化の違いが問題を引き起こすのか？ 本書は、コンテクストでの関係性が文化規範への評価や感情の質を決めることを明らかにした好著。

アイヌ民族の言語復興と歴史教育の研究

上野 昌之著 7000円
アイヌ民族の文化復興活動と教育活動の中に内在化しているエンパワーメントに視点を置き、先住民族としての権利の実現および回復を図るための方策を論じる。

日系アメリカ人の文学活動の歴史的変遷

水野真理子著 7500円
1880年代から1980年代までの在米日本人・日系アメリカ人の文学活動の変遷過程を辿り、多様な移民経験の一端を描出。時間軸と個人の内面による重層的な分析を行う。

エンパワーメント評価の原則と実践

D.M.フェッターマン・A.ワンダーズマン編著 笹尾敏明監訳 3500円
コミュニティのための参加型評価として注目されているエンパワーメント評価の実践事例および10の原則を解説する。コミュニティ活動・介入に携わる関係者必読の手引書。

異文化間コミュニケーションにおける相互作用管理方略

佐々木由美著 14000円
文化スキーマ理論に基づき、各文化で獲得した方略スキーマにより、特定の相互作用の方略を選択することについて、実証的検証を試みた研究である。

国際結婚の家族心理学—日米夫婦の場合—

矢吹 理恵著 5500円
夫アメリカ人・妻日本人の夫婦を対象に、家庭で構築された文化の諸相と心理的な変容過程を分析。多くの事例から国際結婚家族の現状が鮮明に浮かび上がる。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-34
TEL 03-3291-5729 FAX 03-3291-5757

風 間 書 房

(URL) <http://www.kazamashobo.co.jp>
メールアドレス pub@kazamashobo.co.jp

くろしお出版

日本語教育のための

言語テストガイドブック



■ 李在鎬 [編] / A5判 / ¥2,400+税

日本語能力試験、BJTビジネス日本語能力テスト、OPIなど、運用中または開発中の大規模日本語テストについて、その開発者、開発に関与した研究者たちが、テストの背景・目的・開発プロセス・運用実績などを分かりやすく紹介。

日本語を学ぶ／複言語で育つ

子どものことばを考えるワークブック



■ 川上郁雄・尾関史・太田裕子 [著] / B5判 / ¥1,600+税

国内外で日本語を学ぶ子どものことばの学びについて、さまざまなテーマから考えるためのテキスト。子どものエピソードやライフストーリーを読んだり、問いに対して受講生同士が話し合いながら理解を深める。

「グローバル人材」再考

言語と教育から日本の国際化を考える



■ 西山教行・平畑奈美 [編] / A5判 / ¥2,700+税

グローバル人材を日本語との関わりから捉え、日本語教育と外国語教育の専門家たちが論じた画期的な研究書。近年のグローバル人材育成の方向性に疑問を投げかけ、「日本語で」日本を発信できる人材として、青年海外協力隊に着目する。

学習力を育てる日本語指導

日本の未来を担う外国人児童・生徒のために



■ 田中薫 [著] / B5判 / ¥1,900+税

一定の指導を受けても学力が上がらない子どもたち。どこに問題があり、どのように学力をはかり、どう改善すべきか。中学校で外国人児童・生徒を20年以上にわたり指導してきた著者が、日本語指導者たちの悩みに答える。

◇三浦綾希子 A5判上製324頁本体4000円 ISBN978-4-326-25102-5

ニューカマーの子どもと移民コミュニティ

二世世代のエスニックアイデンティティ
ファイリンス系ニューカマーの子どもは、アイデンティティを形成するの
か。ワールドワークにより、移民コミュニティとの関わりから分析する。

◇松尾知明 編著 A5判上製272頁本体3400円 ISBN978-4-326-25090-5

多文化教育をデザインする

移民時代のモデル構築
グローバル化が進展し「移民時代」の到来が現実味を帯びるなか、どのよう
に多文化教育を設計していけばよいかを具体的に検討する。

◇馬淵 仁 編著 A5判上製240頁本体2800円 ISBN978-4-326-25069-1

「多文化共生」は可能か

教育における挑戦
社会における「多文化共生」が謳われて久しいが、その実現は本当に可能な
のか。論点を整理し、課題解決のための具体的な道筋を探る。

◇園山大祐 編著 A5判上製256頁本体2900円 ISBN978-4-326-25073-8

学校選択のパラドックス

フランス学区制と教育の公正
「学校選択」の結果、フランスでは何が起ったのか。階層・地域間格差・
社会関係資本・親の教育戦略等を視野に、日仏の研究者が分析する。

◇額賀美紗子 A5判上製240頁本体4600円 ISBN978-4-326-25083-7

越境する日本人家族と教育

「グローバル型能力」育成の葛藤
グローバルな変化と多様性を生き抜く力はどうに育つのか？ 国や文化
の境界を跨ぐ日本人家族の教育戦略とアイデンティティに迫る。

◇金井香里 A5判上製280頁本体4000円 ISBN978-4-326-25074-5

ニューカマーの子どもがいる教室

教師の認知と思考
外国人の子どものいる教育現場で、教師はいかなる葛藤を経験しているのか。
実践過程における教師の対処方略を、参与観察により詳細に検証する。

◇佐久間孝正 四六判上製352頁定価3200円 ISBN978-4-326-29905-8

多文化教育の充実に向けて

イギリスの経験、これからの日本
多文化・多民族国家のイギリスの現実を見据えつつ、日本における外国人児童
生徒に対する教育施策の変化と、今後の課題を検討する。

◇中野裕二・森 千香子・エレンルバイ・浪岡新太郎・園山大祐 編著 A5判上製272頁予価4700円 ISBN978-4-326-25077-3

排外主義を問いなおす

フランスにおける排除・差別・参加
排外主義は、過激な移民・外国人排斥運動だけでなく、社会のあらゆる場面
に存在する。その根源や構造を分析し、新たな社会形成の道筋を探る。

※2015年5月刊



*表示価格には消費税が含まれておりません。

けい ぞ 勁草書房 <http://www.keisoshobo.co.jp>
〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1 TEL 03-3814-6861 FAX 03-3814-6854

ココ出版

言語教育実践 イマ×ココ

現場(イマ×ココ)の実践を記す・実践を伝える・実践から学ぶ

1,200円+税
創刊準備号 ISBN 978-4-904595-29-9
創刊号 ISBN 978-4-904595-39-8
No.2 ISBN 978-4-904595-51-0



『イマ×ココ』は、言語教育における実践の共有をめざす年刊雑誌です。現場の実践を丸ごと記し・伝えること、それを共有し、それぞれの眼差しで意味づけることで、実践をより豊かで多様なものに変えていくことができる、という信念の下に生まれました。広く投稿も受け付けます。詳しくは、「イマ×ココ」HPをご覧ください <http://www.cocopb.com/imacoco/>

にほんごこれだけ！

地域日本語教育向け

庵功雄監修
(1) 1,000円+税 ISBN978-4-904595-06-0
(2) 1,200円+税 ISBN 978-4-904595-15-5

漢字だいじょうぶ！

生活の中で学ぶ漢字のツボ
トヤマ・ヤボニカ著 中河和子・高畠智美 編
1,600円+税 ISBN 978-4-904595-40-4



異文化コミュニケーション能力を問う

超文化コミュニケーション力をめざして

佐藤慎司・熊谷由理 編 3,600円+税 ISBN 978-4-904595-46-6

日本語教育学の新潮流 11

相互行為としての読み書きを支える授業デザイン

日本語学習者の推敲過程にみる省察的対話の意義

広瀬和佳子 著 3,600円+税 ISBN 978-4-904595-57-2

日本語教育学の新潮流 12

接触場面における母語話者のコミュニケーション方略

情報やりとり方略の学習に着目して

柳田直美 著 3,600円+税 ISBN 978-4-904595-58-9

日本語教育の現場から

言葉を学ぶ/教える場を豊かにする50の実践

佐々木倫子・岡田英夫・鈴木理子・ローズ(平田)昌子 編
2,400円+税 ISBN 978-4-904595-53-4

株式会社ココ出版 〒162-0828 東京都新宿区袋町 25-30-107
tel & fax 03-3269-5438 e-mail: info@cocopb.com www.cocopb.com

グローバル社会と国際教育開発

国際教育開発の研究射程

「持続可能な社会」のための比較教育学の最新線
北村友人著

A5判・上製・二四〇頁・二八〇〇円

オーストラリアのグローバル教育の理論と実践

開発教育の継承と新たな展開
木村裕著

A5判・上製・二七二頁・三六〇〇円

異文化を生きる移民・難民

EUにおける中国系移民の教育エスノグラフィ

山本須美子著

A5判・上製・三七六頁・四五〇〇円

難民問題のグローバル・ガバナンス

中山裕美著

A5判・上製・二四〇頁・三二〇〇円

多様な社会・文化の中の教育展開

インドの無認可学校研究

小原優貴著

A5判・上製・三三三頁・三三〇〇円

アジアの中等教育改革

馬越徹・大塚豊編

A5判・並製・二八八頁・二八〇〇円

異文化理解の鍵としての外国語教育

一貫連携英語教育をどう構築するか

「道具」としての英語観を超えて
鳥飼玖美子編著

A5判・並製・二八〇頁・二八〇〇円

国際共生と異文化理解のために

クリティック多文化、異文化

馬淵仁著

文化の捉え方を超克する
四六判・上製・二四八頁・二四〇〇円

国際共生とは何か(国際共生研究所叢書3)

平和で公正な世界へ
黒澤満編著

四六判・並製・二四〇頁・二〇〇〇円

明日を生きる子ども・若者たちのために

21世紀地球寒冷化と国際変動予測

丸山茂徳原著 吉田勝訳

A5判・並製・一七六頁・一六〇〇円

温暖化よりはるかに恐ろしい間近に迫った寒冷化に向け今こそ人類の英知を結集せよ。

〒113-0023 東京都文京区向丘1-20-6
http://www.toshindo-pub.com

東信堂

TEL03-3818-5521 FAX03-3818-5514
Email tk203444@fsinet.or.jp [価格税別]

ナカニシヤ出版

TEL 075-723-0111 〒606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町15
FAX 075-723-0095 http://www.nakanishiya.co.jp/ (税抜価格)

アジアの教科書に見る子ども

塘利枝子 編著

アジア各国の教科書に描かれた子ども
の姿から理想の家族と子ども像、
性役割観の違いを解明。43300円

留学生アドバイジング

◎学習・生活・心理をいかに支援するか
横田雅弘・白土 悟 著

グローバル時代の留学生政策、留学交
流のための理論と実践。3500円

インタープリター！ トリーニング

◎自然・文化・人をつなぐインタープリ
テーションへのアプローチ 津村俊充他 編
促進者育成のために。2500円

中学生・高校生・大学生のための 自己理解ワーク

丹治光浩 著
グループワークや質問紙で自分の行
動・思考の傾向を知る。1600円

Excelによるアンケート 調査の第一歩

辻義人 著

具体的な事例を通して出力結果の読
み取り方を重視した、初学者のため
の実践的入門テキスト。2000円

ピアチニューター！ トリーニング

◎学生による学生の支援へ
谷川裕稔・石毛 弓 編著
学生同士の学びのために。2200円

学生のための学び入門

◎ヒト・テキストとの対話からはじめよう
牧 恵子 著
読書と対話で書く力をみがく初年次
テキスト。1800円

「今ここ」を生きる 人間関係

杉山郁子 編
人間関係を体験し、学び、編集しなお
し、新たな対人関係、組織、コミュニ
ティをつくりだす。2200円

動きながら識る、 関わりながら考える

◎心理学における質的研究の実践
伊藤哲司・能智正博・田中共子 編
質的研究の実践テキスト。2800円

「コミュニケーション研究法」

末田清子・抱井尚子・田崎勝也・猿橋順子 編著
研究の心構えから、フィールドワー
クや実験法、質問紙法、統計まで、必
須の研究手法を解説。3200円

統計データで読み解く 移動する人々と日本社会

◎ライフサイクルの視点から情報分析を学ぶ
川村千鶴子 編著
多文化社会を考える。2200円

データで見る 東アジアの健康と社会

◎東アジア社会調査による日韓中台の比較3
岩井紀子・埴淵知哉 編
EASS2010による比較。4800円

JAPAN STUDY SUPPORTは 全世界で活用されている 「日本留学ポータルサイト」です



留学情報・日本の大学、大学院への留学なら JAPAN STUDY SUPPORT



JAPAN STUDY SUPPORT for information of studying at Universities and Graduate Schools in Japan



유학 정보·일본의 대학, 대학원의 유학이라면 JAPAN STUDY SUPPORT



留学日本，上日本留学网，汇集日本学校·日本大学留学信息_JPSS 日本留学网



希望到日本的大學，大學院留學的相關信息 JAPAN STUDY SUPPORT



Nếu bạn cần thông tin du học hay muốn du học tại Đại học Nhật Bản, hãy tìm hiểu tại JAPAN STUDY SUPPORT



JAPAN STUDY SUPPORT situs untuk informasi studi ke Jepang, studi sarjana, pascasarjana di Universitas Jepang



ข้อมูลการศึกษาต่อประเทศญี่ปุ่น : ศึกษาต่อมหาวิทยาลัย, บัณฑิตวิทยาลัยที่ญี่ปุ่น ต้อง JAPAN STUDY SUPPORT

異文化間教育学会 第36回大会準備委員会

大会準備委員長 新倉 涼子 (千葉大学)
副委員長 吉野 文 (千葉大学)

委員 ガイタニディス ヤニス (千葉大学)
小林 聡子 (千葉大学)
五十嵐 洋己 (千葉大学)
相磯 友子 (植草学園短期大学)
桐原 礼 (帝京大学)

学生スタッフ 下島 泰子 (東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科)
張 愛子 (東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科)

千葉大学生・大学院生

表紙デザイン：千葉大学 正門

異文化間教育学会 第36回大会発表抄録

発行日 2015年6月6日
発行者 異文化間教育学会 第36回大会準備委員会
委員長 新倉 涼子
〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33
千葉大学 新倉 涼子 研究室内
email: cireglobal@chiba-u.jp